

News Release

2013年4月26日

会社名 パイオニア株式会社
 代表者名 代表取締役兼社長執行役員 小谷 進
 (コード 6773 東証第一部)
 問合せ先 代表取締役兼専務執行役員 岡安 秀喜
 (電話 044-580-3211)

事業構造改善費用の計上、連結業績予想の修正および期末配当についてのお知らせ

当社は、事業構造改善費用を計上することとなったことから、本日開催の取締役会において、連結業績予想の修正および期末配当について決議しましたので、次のとおりお知らせします。

1. 事業構造改善費用の計上

当社は、2013年2月12日に発表した構造改革施策に関連し、2013年3月期（2012年4月1日～2013年3月31日）において、特別損失として事業構造改善費用6,500百万円を計上する見込みとなりました。

2. 2013年3月期の連結業績予想の修正

2013年2月12日に発表した連結業績予想について、次のとおり修正します。

(金額単位 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純損益
前回発表予想 (A)	457,000	10,000	5,000	△4,000
今回修正予想 (B)	450,000	6,000	1,000	△19,500
増減額 (B-A)	△7,000	△4,000	△4,000	△15,500
増減率 (%)	△1.5	△40.0	△80.0	—
2012年3月期通期実績 (ご参考)	436,753	12,514	9,863	3,670

売上高については、カーエレクトロニクスの売上は計画どおりに推移しましたが、主にホームエレクトロニクスの売上が計画を下回ったことから、前回発表に対して7,000百万円減少して450,000百万円となる見込みです。

営業利益は、ホームエレクトロニクスの売上高の減少による売上総利益の悪化に加えて、カーエレクトロニクスにおいてコストダウンが計画を下回ったため、前回発表に対して4,000百万円減少し、6,000百万円となる見込みです。

経常利益は、営業利益の悪化に伴い、1,000百万円となる見込みです。

当期純損益は、営業利益の悪化に加え、前述のとおり事業構造改善費用6,500百万円を見込んだことや、繰延税金資産の取崩し等で5,000百万円悪化することから、前回発表に対して15,500百万円悪化し、19,500百万円の損失となる見込みです。

3. 2013年3月期の期末配当

当社は、2013年3月31日を基準日とする期末配当を無配とします。

[配当の内容]

	1株当たり配当金		
	中間	期末	合計
決定額	0円	0円	0円
前期実績(2012年3月期)	0円	0円	0円

当期の期末配当につきましては、前述のとおり2013年3月期連結決算において当期純損失を計上する見込みとなったことから、誠に遺憾ながら、前期に引き続き無配とさせていただきます。

当社は、早期復配を目指し、業績の向上に努めてまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

見通しに関する注意事項

当発表資料中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報や将来の事象等の結果としてこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向や当社が製品等を供給する業界の動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上するユーロ、米ドル、その他の通貨と円との為替レート、(3)競争の激しい市場において、顧客から受け入れられる製品を継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)他社との合弁、提携またはその他の事業関係の成功、(6)資金調達能力、(7)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(8)製品に関する品質管理能力、(9)生産に必要な重要部品を継続して調達し得る状況、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

以上